

平成27年度第3回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 平成27年10月14日（水）
- ◎開催日時 平成27年10月21日（水） 午後3時30分～5時
- ◎場 所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席者 白鳥市長、松田教育委員長、宮脇教育委員長職務代理者、平澤教育委員、田畑教育委員
- ◎欠席者 なし
- ◎出席職員 北原教育長、大住教育次長、北野学校教育課長、小松生涯学習課長、捧文化振興課長、酒井スポーツ振興課長、森田高遠長谷教育振興課長、中村指導主事、唐木指導主事、山崎教育総務係長

1 開 会

大住教育次長

皆さん、こんにちは。今日は伊那公民館の開館式にご出席いただきまして、大変ありがとうございました。本日、第3回となります伊那市総合教育会議を始めて参りたいと思います。初めに白鳥市長からごあいさつをお願いします。

2 市長あいさつ

白鳥市長

こんにちは。総合教育会議第3回ということで、いろんな意見を交換しながらこの地域の教育の先々のこと、また、今後の課題解決に向け進めているわけですが、教育と言いましても非常に幅が広く深いものでありますので、簡単にはいかないこともありますし、また、ちょっとしたヒントで、新しい展開が始まるということもあろうかと思えます。まさに収穫の秋真っ盛りであります。学校では子どもたちが農業体験を通じて様々な取り組み、展開をしておりますので、そうしたところを見るのも大変楽しみです。11月の報告会、内山節先生が2回目におみえになって、現地を見ながら、また、意見交換をするということでもあります。先日も上伊那広域連合の視察ということで、伊東市、三島市、それから伊豆市と回っているところを見てまいりましたけれど、やはり地方創生だとかシティプロモーションだとかのほかに教育が非常に重要であるとそれぞれの自治体の皆さんもおっしゃっていました。また、伊豆市の方ではジオパークを一生懸命やっているということ。また、それが大きな展開、広がりを見せていて外国人が動き出しているということを知りまして、私たちのジオも教育的な見地に加えて、観光、地域振興ということも加えてやっていかなければいけないかなあということで見えてまいりました。このところ毎週のように出張がありまして、なかなか自分の時間が取れずに朝早く来てやったりとか、お昼休みを使ってやる。そんなことでやってはいるんですが、追いつかない状況であります。それでも職員がいろいろなところで活躍してくれておりますので、いろいろなことが確実に一步一步前に進むというふうに思っております。今日もいろんな課題、テーマをお互いに意見交換しながら、この地域の子どもたちが地域で輝き、また、日本の中でもあるいは世界に飛び出して行きながらも、この伊那というものをしっかりと確認して、生涯、自分たちのふるさとであると、そんなことを思っていけるようなそうしたこと

を私たちは是非サポートしていきたいということで、今日も会議をよろしくお願いたします。

大住教育次長

ありがとうございました。続きまして、松田教育委員長からごあいさつをお願いいたします。

3 教育委員長あいさつ

松田教育委員長

先日合庁の職員の方に、初めて来ていただくことがありまして、開口一番「山がきれいですね。」と言ってくださいました。私の住んでいるところは手の届くところに山があってその山が紅葉しているので大変今美しくて、その景色に心打たれたんだと思います。外から来てくださった方がそういうふうに言っていただきますと、また、自分の地域への思いっていうんですかね、帰属意識というかそうしたものが高まるなあ実感しました。先日の10月16日の日には多分10年に1度くらいになると思うんですけど、県の市町村教委連絡協議会の研修総会がございまして、国立教育政策研究所長の大槻達也先生においでいただきまして、大変充実した研修会ができました。今、市長さんの方から職員の働きについてのお話をいただきましたけれど、事務局の皆さん総出で出ていただきまして、大変充実した会にさせていただきましたことを心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。2学期は運動会、あるいは主幹指導主事の学校訪問の帯同等がございまして、教育委員は各学校に頻繁に足を運びました。先生方、みなさん本当に一生懸命やってくれていて、市の教育の充実のために働いてくださっているなあということを実感して帰ってきているところでありますけれど、学校訪問をすればいろいろと課題も教えていただいておりますので、今日はそんな点についてもお話をさせていただき、更なる充実のために頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

大住教育次長

ありがとうございました。続きまして協議事項に入りますが、資料を用意してございます。こちらにつきまして、主要事業の概要は27年度、今年度のものでございますが、こちらを参考にさせていただきまして、その次第にございます事項につきまして市長、教育委員の意見交換という形でお願できればと思います。それでは白鳥市長、進行の方をお願いいたします。

4 協議事項

(1) 平成28年度教育関係予算編成に係る意見交換

ア 地方創生に係る取り組み

(ア) 総合的な学習

白鳥市長

それでは、協議事項に基づきまして進めていきますが、ここに書いてあることから脱線をしなから行くこともあろうかと思いますが、これも全てOKということでやっていきたいと思っております。まず、最初に平成28年度予算編成に係る意見交換とい

うことであります。いくつかの項目があるわけですが、そうしたところは事務局の方で提案してもらい、それに対して意見をいただくということでお願いしたいと思えます。特に教育にかける予算というのは、大変重要ですので、惜しげもなくという表現は難しいとは思いますが、できるだけ教育については投資をしたいと考えております。最初に地方創生に係る取り組みということで事務局の方でお願いします。

北野学校教育課長

それではお願いいたします。皆様ご承知のこととは思いますが、伊那市におきましては伊那市地方創生総合戦略を策定しておりまして、間もなく市長に答申がされると聞いております。その中で学校教育の関係で大きく総合的な学習の推進、キャリア教育の推進、また、本格的農業を組み入れた食育、「暮らしのなかの食」ですが、の推進が挙げられております。また、ICT教育の部分では規制緩和のところのテーマになるわけですが、こちらの総合戦略の中でICTを活用した遠隔教育の実施ということで組み込まれているものでございます。総合的な学習については伊那小の取り組みを始め伊那市の伝統ある学習を進めてきているものであります。こちら資料としましては、主要事業の概要の方の4ページと7ページのところで、4ページのところで申しますと一番上の「小学校創造的活動事業推進」ということで本年度ご覧のように予算付けしております。中学につきましても7ページのところですが、予算計上しているものになります。また、キャリア教育につきましては、別紙の平成26年度3月追加分の3ページ目になります。「伸びやかに子どもを育てる環境の整備」ということで、「キャリア教育の推進」を掲げております。また、その下になりますが、伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」ということで、予算的にはこのような金額を計上しております。ICT教育につきましては、主要事業の概要に戻っていただき7ページ「中学校情報教育推進」でございまして、タブレット端末のリースを継続しながら発展的な学習を行っていきたくとするものでございます。以上簡単ですが説明とさせていただきます。

白鳥市長

地方創生に係る取り組みの総合的な学習、4ページ、7ページ、これについてご意見をいただきたいと思えます。4ページにつきましては小学校に、7ページは中学校にあたるということでもあります。

意見をとっていったって難しいよね。

松田教育委員長

伊那と言えば総合的な学習ということで全国にも知れ渡っている取り組みですけれど、その端緒は伊那小学校が公開学習指導研究会というのを開いて、全国から先生方に来ていただいて授業参観をし研究会を使って、その積み重ねが現在の道を拓いてきたと思うんですけど、ひとり伊那小だけでなく、伊那市内のとりわけ小学校の各校においては伊那小に劣らない実践をしているように認識しています。この夏にも台湾から視察団があつて、新山小学校の5年生の実践事例を報告していただきましたら、視察団の皆さんのメモを取る手が止まりませんでした。そしてそのあと「これはどういうふうにしてやっているのか。」とか、「これはモデルがあるのか。」とかさまざま質問等が飛びました。そういう意味で総合的な学習は伊那市においては定着してきているというふうに認識しておりますが、心配なこともないわけではないです。そ

これは本来、例えば、社会科にしても理科にしてもほかの教科にしても、子どもの求めとか願いとかそういうものを基にして学習を展開していくと、おのずと教科横断的な学習になっていって、振り返ってみれば社会科で始まったんだけど、それが総合的な学習になったりということはいくらでもあると思うんですが、総合的な学習の時間とか生活科の時間が教育課程の中に位置づいてしまうと、その教育課程は子ども中心にやるが、教科の方は教師主導にやるというふうに、教室の中に二極化が起こる。そういう懸念があると思うんです。そういう意味で二極化を起こさないようにするためには、行きつくところは教師の弛まない研修にあると思うんです。そういう意味でこちらに出していただいた資料の3ページの「小学校教育振興」ですけど、一番下のところに「教職員資質向上研修・社会人講師等報償」というのがございますけれど、既に予算付けをしていただいているところですけども、更にこの研修等の充実のためにご配慮いただけるとありがたいと思いますので、ご意見として申し上げます。

白鳥市長

これ、去年もついていたんですよね。

北野学校教育課長

はい。

白鳥市長

去年と比べて額はどうなんですか。

北野学校教育課長

若干増えています。

白鳥市長

去年、70何万だったんじゃないっけ。

北野学校教育課長

委員長さんのご提案の中で上げていただいた経過があります。

白鳥市長

社会人講師というのはどなたが来たんですか。

松田教育委員長

各学校によって選択が違いますので、地元の方に来ていただくとか大学の先生に来ていただくとか、そういう形になります。

白鳥市長

さっき話をした内山先生に来ていただくときには積極的に参加していただくようなことを考えてもらいたいね。講師料としてはひとりでこのくらいいっちゃう。

松田教育委員長

内山先生の場合には、別枠で予算化していただいているんだと思う。

白鳥市長

資質向上研修以外のところにも、いろいろな講師が来て様々な場所でいろんなことをやっているの、そんなところのアナウンスもしながら先生方に参加してもらおうというのうんと大事だと思うんですね。学校のなかだけで完結するのではなくて、いろんな講演会だとか講習会があるので、忙しいんでしょうけど来て聞いてみるとかね。

松田教育委員長

時々、市役所の職員研修の形で多目的ホールとか5階で講演会がありますよね。めったに聞けないような一流の講師が来るので、ああいうのを是非学校にアナウンスしていただいて、研究主任の先生方が聞きに来るとか、そういうふうに声を掛けていただけるとありがたい。

白鳥市長

これ、教育委員会の方でイベントとか講演の情報を各学校に流せるようにしているんだっけ。特にやっていなかったっけ。先生方の目に触れられるようなしくみ。

小松生涯学習課長

職員研修のメールが各学校には行っていると思うんですが、学校が先生方まで配っているかどうかは各校の対応によるのではないのでしょうか。

白鳥市長

来る来ないの元のところが届いていないと選択できないので、そうした情報が先生のところまで届くようなことを考えた方がいいかもしれないね。せっかく一流の人が来たりするので、そうしたところも、興味あれば来てね、場合によっては授業中であっても誰かにチェンジしてもらって聞きに来るとか。いいですかね。ちょっとそれ考えてみて。ほかどうでしょうか。

北原教育長

今の研修にも関わるんですけど、例えば総合的な学習について発表会を持たせていただいて、それぞれ学びあっています。当初は、それをすることによって画一的になってしまいはしないかなと心配したんですけど、おかげさまで、各校が独自の総合的な活動の時間を大事にしている。このところが先ほどの研修にも関わってくるんですけど、それぞれのところで学んできた核になる先生方が大分頑張ってくれていると、そういう中でいますので、一緒になってもそれぞれが、学校の独自性、また地域に密着した活動になっていると思いますので、今後ともそうしたところに配慮しながらこの会で学び合っていきたいなあと考えております。

白鳥市長

はい。

北原教育長

昨年は雪の関係で急遽バスを出していただきました。そういうようなことも市の方でやっていただき、会の方はスムーズに運営できました。

白鳥市長

ほかはどうでしょうか。

宮脇教育委員長職務代理者

創造的活動事業で学校割 140,000、学級割 8,000 円とありますが、具体的にどんなことに使っているかはわかっていますか。そこまで詳しく分かっていないので、要は自由に使っていていいよということなのではないでしょうか。

北野学校教育課長

はい、そういうことです。

宮脇教育委員長職務代理者

例えば、どんなふうに使われているかはわかりますか。

北野学校教育課長

はい、手元に資料がなくすぐお示しできませんが、報告はもらっているので分かります。学校ごと、農作物の栽培ですとか、高齢者との交流ですとか、和楽器体験ですとか、この前も評価でお示ししましたが、様々な活動を行っていて、それに対して学校の裁量でお使いいただけるという状況です。

松田教育委員長

例えば、動物を飼育するというような活動が生まれた時に、その動物を借りてくる費用に使ったりとか、あるいは、畑作業をするときにどうしても肥料が必要だとか、種が必要だとかいうことがありますよね、そういうのに使ったりしているのが多くの学級の使い方ではないかと思います。

(イ) キャリア教育

白鳥市長

では次に行きたいと思います。キャリア教育について意見をいただきたいと思うんですが、先日、上伊那広域連合の市町村長と経営者協会の上伊那支部の幹部の皆さん、タカノ、KOA、ルビコン、伊那バスとか、そういう皆さんとの意見交換がありまして、その時にもキャリア教育は非常にいい内容であるという話をいただきました。傳田さん（キャリア教育コーディネーター）にも出てもらってそこで説明をさせてもらったんですけど、非常に高い評価を伊那市は受けていると、これを上伊那全域に広げるべきではないかと、そうした話もありまして、今年については、上伊那の各中学校から何人も出ていただいて、「夢大学」を始めている。これをもっと広げていって欲しいという話をしていましたね。伊那のキャリア教育は文部科学省から高い評価を受けるだけのものを持っていますので、これを伊那市だけで完結するのではなくて、もっと上伊那全体に広げていった方がいいのかなというそんな意見がありました。本当にこの地域を支えていく子どもたちの成長を私たちはサポートするわけですので、今、人口減の中で日本もだんだん人口が減ってきていて、地方がより減り方が著しくて、経営者の皆さんが言っているのが伊那でも募集をかけても人が来ないと、で、このこ

とについては小学校中学校では地域のことをどんどん話をしながら、この地域の良さを知っていくんだけど、高校に行くと全部止まっているんじゃないかと。高校へ行くと先生方は一切そうしたことは言わずに、授業を繰り返していく。そして生徒はその授業を受けながら大学は東京だ、名古屋だと言って、こっちへ帰ってくるというところの教えというか話が全くないまま向こうへ定着してしまうという繰り返しになっていて、地方からどんどんどんどん吸収されていく。このことに何らかのブレーキをかける。変化を促すべきではないかという話も出ていますね。じゃあ、キャリア教育について別紙の4にあるのかな。説明してください。

北野学校教育課長

これについては、本年度前倒しということで、205万円の予算を計上してありますが、ほとんどキャリア教育コーディネーターの人件費ということになります。ただ、新たにいわゆる職場体験に先立って、田畑委員さんにもお越しいただいているようですが、事前学習の場面で講師を派遣してもらうという部分も各校1万円、合計6万円ということで計上しております。本年度の主な取り組みとしましては、伊那市キャリア教育推進委員会が中心になりまして、春にはキャリア教育の「産官学交流会」、箕輪で開催し150人余の参加がありました。8月には先ほど市長が触れた「夢大学」こちらを上伊那広域という考え方の中で手を着けているところでございます。あとは職場体験学習、5月からこの11月まで各中学校において実施されておりまして、キャリア教育の事業としましては、こういったところが主な内容になります。

白鳥市長

どうでしょうか。キャリア教育についてご意見を、特に田畑委員さん。

田畑教育委員

いろいろな形で関わりを持たせていただいて、今思っていることは、未来を担う子どもたちを主人公に考えた時に、取り巻く環境、産業界と学校と行政との関わりが覚えてくるんですけど、3つとも共通しているのは伊那の教育理念である「はじめに子どもありき」で、いかに目の前にいる子どもたちが豊かに次の時代を過ごしていけるように、この地域に根ざして継続していくようにということを目指していることはみな共通なんですけど、やはり、抱えている課題はそれぞれ見え方が違って、3つの団体が一堂に会して話をしていく中で、超えていかなければいけない壁がそれぞれ間違いなくあるわけで、実はそれは引いて見てみると、それってみんなの共通課題であって、時間をかけてもう半歩ずつ胸を開けると実はみな同じ問題をただ見ている位置が違うだけだということに気が付いていただけるのかなあというのが、今回交流会をやった中で非常に感じたところで、どうしても産業界の人が欲しいという欲求が強くなるので、そこのバランスがこれからは大事になってくると思うんです。余談みたいな話になるんですけど、私も教育委員会に入る前は、言葉を選ばず言わせてもらうと、新しく新入社員として入った人たちが企業の中でドロップアウトしていく。せっかく地元に入ってきたのになじめずやめていく子たちが多いという問題があった時に、企業側は何を言うかということ、「学校の教育現場の先生たちが世の中を知らないからだ。」と、「もっと世の中のことを知って子どもたちを教育してもらわないと社会に出てきて企業人としてもう一回再教育しなければならないんですよ。」ということを企業人は思っているんですね。片や先生たちはっていうと、当然地元の継続、

企業の繁栄ということも大事なんですけど、一人ひとりの子どもと向き合う中では純粹にその子の可能性をどうやって伸ばしていくかということに注力していくという思いが強いので、子どもに真摯に向き合っている先生たちというスタンスがあるわけで、なかなかその辺がひとつの方向性で折り合わない流れの中で、企業人側からの学校教育の現場にもっと社会性をつけてというのが色濃く出ているような気がするんですけど、私、この1年2年の流れの中で言うと、先生たちと話をさせていただいて実感として思うのは、新しい視点なのかもしれませんが、ちょっと経営側の人たちも考え方を改めていくべきだと思っておりまして、確かに目の前に20歳くらいで現れてくるニュータイプの新しい社会人たちが旧タイプの人たちから見ると欠けている部分、よく現場で言われるゆとり世代と言われる人たちに対して、競争心がないとか、何を思っているのかわからないとか、企業側の今出てくる人たちの観点なんですけど、これ、いくら同じことを言っているけど、5年経っても10年経っても、エジプトの壁に最近の若い者はと描いているのと全く同じことになってしまっていて、何をすべきかって思ったかということ、実は小学校就学、中学へ入ってくるあたりを一生懸命やっていたという先生たちは、社会環境、家庭環境、いろんなものが変わってきて、新しく目の前に生まれてくる次の世代の人たち一番スタートラインのところで対応してくれている人たちなんですよね。で、どういうふうに教え導いたらその子の特徴が伸びるかということ現場で本当に真摯に向き合っている人たちが育てた人が15年後企業の中に入ってくると、そこに対して文句を言っているけど始まらないので、もっと企業の側の人たちが15年後目の前に現れてくる新しい企業を継いで行くメンバーである子たちが今どんな状態でこの地域で育ってきていて、小学校、中学校で今先生たちがどんな問題に向き合っているか。その向き合い方を企業が学ぶことで、実は学校の教育システムはどんどん変わってきているんですよ。でも、企業、特に中小企業の教育システムって70年前のトップダウンのシステムを持っているままで、新しい可能性を持ってきている子をつぶしてしまっている側面もあるわけで、新人が来た時にどんな関わり方でその子の特徴をこの企業に活かすのかという教育の流れを中小企業は教育の現場で実はもっと学ばなければいけないのかもしれないんじゃないかというのを非常に思っています、社会の流れからすると先生はもっと学ばなければいけないというのがあまりに強すぎると思うんですけど、むしろ逆ということを考えていかないと、逆転現象が起きてきて、可能性と自由度を持った子どもたちが本当に感性豊かに育ってきたものを中小企業がつぶすというもったいないことが実は就職というレベルでも起きているということをもうちょっと考えていくと、産学官交流会でやるべきことというのは決して一方通行ではなくて、先生たちからもっと発信してもらって、企業側が自分の持っている教育システムを変えていくきっかけを作れるような産学官交流が生まれてくるのが、キャリア教育のベースを支えるものとしては大事な観点なんじゃないかなというのを思っています、予算とは関係のない部分なのかもしれませんが、教育委員会がその辺の中間を取り持つ新しい取り組みの勉強会みたいなものを企業側に発信するというのも、これからはすごく重要なんじゃないかと感じております。長くなりました。

白鳥市長

ほかにどうでしょうか。

松田教育委員長

先日、この産学官の会長をしている向山会長さんの方から、市町村教育委員会連絡協議会も是非協力をしていただけないかというお話をいただきまして、先日の上伊那市町村教委連絡協議会で協議をいたしました。そういうなかで今、田畑委員さんが言ってくれたように、学校教育ではどんなふうに考えているのかということについて、その会の中に入り発言していくことが大切ではないかということで、代表の方に入ってくださいように入りました。また、校長会も是非そうしたところに参画して意見を言うことが大事じゃないかということで、鋭意検討していただいているのではないかと思いますので、更に1歩、産学官のキャリア教育っていうのは進んでいくような気がしているところであります。実は、ちょっと話が違うかもしれませんが、先日、高遠高等学校の90周年記念事業がありまして、高遠高校の卒業生であり専修大学の学長をされている矢野建一先生がご講演をされたんですけれども、先生、「高遠高校が進めているコース制の学び、この学びはとても大事だと、こういう学びを進めていくことによって少子化時代のなかで生き残っていく。そういうことができるのではないか。」もう少しいろんなことをお話ししてくださったんですけれども、いずれにしても高遠高校が進めている地域に根ざした、先程市長さんの方から小中は一生懸命やっているけど高校に入ったらやめちゃうという話をされましたけど、高遠高校の場合は大変それを前向きに受け止めて一生懸命やっておられるので、高遠高等学校に対する振興会の支援というものが非常に大事じゃないかということを思います。

平澤教育委員

ちょっと違うのかなとも思いますけれど、先程の説明のなかにもありましたけれども、職場体験に行く前に事前学習を派遣してやっているというのがありましたよね。学校側からも企業側からも、大変いいという評価をいくつか聞いたんです。でもそれは、今の産官学（交流会）に集まってこういうことをやっているって知っている人だけじゃないかな。中小企業のところが旧態依然としている中で、そうしたところは参加しているんですか。だから、せっかく学校でいい視点でもって、「職場体験にはこんな視点で行ってごらんないかい。」って「こんなことを学んでらっしゃい。」ってやっているのに、受ける側は自社のやっていることを説明するだけになっちゃう。そんな中で学び損なってしまわないか。言うことがちょっと違う。例えば、「自分の会社は現場ではこんなことをしてるんだけど、夢はこんなことを描いていて、伊那谷をこんなふうにしたいと思ってその（思いの）一部でやっているんだよ。」ということがひと言言えるか言えないかで随分違うような気がして、せっかくいいことを子どもたちにやっていることを企業が知ること、企業に出前講座は無理でしょうけど、何かこれがあるというのを、私も職場体験の一部を担ってくれとポツと時間だけいただいて、「えっ、何するんですか。」っていうなかで、案外受け手っていうのは、時間だけとにかくやっていることを説明してくればいいよというオリエンテーションだったので、そういう調子で他のところも受けているんじゃないかなあということも思って、ここら辺が一致してくると子どもの学びは多いんじゃないかなあと思います。昨日、美篤小へ行った時に美篤出身の人が一流大学を出て一流商社に勤めたんだけど、どうしても満足できなくて、ふっと子どもの頃ふるさとでじいちゃんばあちゃんが中川にいて、そこに行つての体験が心に残っていて、実現したいということでおばあちゃんが亡くなって空き家になっているところに住んで、レストランだと言っていましたけれど、そんなふうにして地元に戻ってきてよかったという体験を話されたんです。それを聞いて、やはり子どもの頃にどんな体験をしたか、せっかく職

場体験をするので、同じ視点で迎える側もできたらいいなと思いました。

白鳥市長

はい。これ、5時までだっけ。

北野学校教育課長

はい。5時までです。

(ウ) 伊那市食農体験事業「暮らしのなかの食」

白鳥市長

時間を見ながら進めていって、余ったらテーマに行きますけど、次の「暮らしのなかの食」ということでお願いします。実はこのところ毎週のように新宿区の老舗の社長さんが伊那に来ています。新宿高野とは行き来をして、新宿高野のシェフがこの地に来てアルプスパーラーということで先々週やりました。その翌日には新宿柿傳という老舗があります。川端康成がよく行っていたという表千家の貸席とか料理屋さんですけれど、その社長さんがお見えになって2日間にわたって伊那の農業の風景をずっと見て行ってもらいました。本当に驚いていました。「初めて来た。こんなに素敵な場所があるのか。」ということで、いろんな感動をして帰ったんですけど、また、先週、伊勢丹の社長が来ました。私が案内をして、前の農水省の事務次官の皆川さんとお二人で見えて、伊勢丹の社長も本当に驚いていました。「こんな風景が日本にあったんですか。」と、まあ、知らなかった方がいけないと思うんですけど、みはらしのリンゴ、ブドウ、東春近の酒井さんのアルストロメリアのハウスに行って花づくりの勉強をし、伊那食(品工業)へ行って会社の経営方針をいろいろ聞いたりしながら、あとディーエルディーへ行ったり、ペレット工場へ行ったり、日帰りだったんですけど、みっちり詰め込んで、いろんな体験をされていって本当に喜んで帰られましたね。「この健全な風景、農業がきちんとしていて、しかも商品価値の高いものをいっぱい作っている。」という話をされましたので、実は「この子どもたちは『暮らしのなかの食』とって本格的な農業を学校で小学1年生から中学3年生までやっているんですよ。」という話をしました。そのことにもたいそう驚かれて、東京、都会では絶対できないことですよ、それをこの伊那で展開しているということ。また、機会を見ながらこちらに何回も来るとお思いますので、実際に見てもらったり、そうしたことが都会と地方との交流につながっていけばいいかなと案内したんですけど、ともかく景観と農業のたたずまいですかね、皆さん瞠目していましたね。そんなことで農業がいかに大事かということ、それから小さいころの体験が人生の人間形成のなかでも大きな柱になってくるとお思いますので、そんなことを今やっていただいておりますし、このことについて意見をいただければと思います。事務局からありますか。

北野学校教育課長

特にありませんが、先程市長からもありましたようにこの11月4日、内山節先生の招聘に向け準備を進めておまして、多くの参加者に来ていただけるような工夫、多目的ホールでの開催ということで、人数は限られてしまうんですが対応していきたいというところがございます。また、中村指導主事中心に各学校の取り組み状況はその都度確認をしていただいております、秋以降も取り組みが出てきているところが

あるように聞いております。

白鳥市長

ちょっと話をしてください。

中村指導主事

秋口になりまして、トマト、ナス、キュウリはほぼ終わりました。ジャガイモの収穫、稲の脱穀、今日は西箕輪小学校で脱穀も行われておりますけれども、そうした作業も終わって、畑の方はジャガイモの収穫のあと大根を蒔いているところがほとんどです。あと、広い土地のあるところ、例えば西春南あたりでは畑を耕して来年に向けてということで小麦を蒔いております。高遠の方でもそうだったかと思います。

白鳥市長

そういうアイデアは誰が出すんですか。

中村指導主事

一応、職員の中で来年どうするか、今年度の反省ですとか子どもたちに「今後どうしたい。」って聞いていく中で決めていくことが大きいです。全体で小麦を栽培していこうというようなことは職員会議で決めており、どんなものが子どもたちの願いに沿うものであるかということで話し合いをしております。

北原教育長

今、大根の話が出ましたけれど、羽広カブを漬物にするとか、長谷中学校はかなり広いところで荒れ地をそのままにしたいということで今野沢菜を何段階かに分けて作っております、もうかなりになっていますけど、道の駅で販売しようということで、もう契約が済んでおります。小麦の話がありましたけれど、富県もおとといかな、蒔いて、やはり去年までだったらほとんど冬場はなかったのを、これからどうしようかっていう発想が子どもたちの中からも、もちろん職員も意識を持っていますけれど、出てきているかな。大きく違うと思います。この前もありましたけれど、夏休みにどうするかという話、収穫をずらすということ、こうしたことをやってくると子どもたちも考えてくる。

白鳥市長

いいですね。冬の話は初めてですね。漬物を作りましょうなんていう話は前あったんですけど、農業は一年を通じてずっとやっていくものですから、季節だけではないですからね。そういうのを学ぶことも大事でしょうね。

田畑教育委員

実際うちに子どもがいるんですけど、今日、祖父母参観、東小でおじいちゃんおばあちゃんを呼んで自分たちが畑で作った豆を収穫してずんだ餅を作って食べるっていう授業をやっています、その授業をやる前にひと握りずつ収穫したのをもらってきたって大事そうにハンカチに入れて持ってきましてそれを茹でまして、で、うちはじいちゃんばあちゃんも同居していますので、どうしたかっていうと孫が作ってきたものだからって仏壇に供える、みなで手を合わすみたいなことをやって、私は仕事でい

なかったんですけど、帰ったら小っちゃい豆が一つ残っていて、「なにこれ」って言ったら「息子が作ったものだからお父さんも食べて。おいしかったって明日言ってあげて」って、家庭のなかでも展開されますし、つい先日アウトレットに行ったらスタンプラリーをやっている、野菜の花っていうのが出ていた時に小学生2年生なんですけど、「かぼちゃの花ってこれだ。」って「俺、見たからこれだ。」って出てきたのは、普通に授業が展開されていなければ、うちはかぼちゃを作っていなかったのだからなかったのかなあと思いました。浸透してきているのかなとは思いますがね。身近にあるっていうことが大事なことなんだなと思います。

松田教育委員長

前、国少（国立青少年自然の家）にいて、「暮らしのなかの食」に携わっていただいた山本祐一先生が、内山節先生を大変尊敬していて、どうしても聞きたいんですけど今海外に行っているのだから来れないということで残念なんですけど、市長さんもお承知だと思うんですけど、今回おいでになる演題が、「創造的教育と学校農園」サブタイトルが「作ることを学ぶ、風土をまなぶ」中身は、「学校を教わる場から学びの場へ。学びとは自分たちの生きる世界を知ること。食への創造的な関わりは、自分たちの風土を知ることにつながる。いま風土のなかで考えることのできる人間の育成が求められている。」こういうふうに言うておられるんですけど、求めている「暮らしのなかの食」で根幹となることを先生がぱっと捉えているっていうことをこれを見て思いましたね。

白鳥市長

私たちが実践している姿そのものですね。そうですか。

松田教育委員長

こういうふうに、風土の中で考えるということは、つまり、この地域が見えてきてこの地域への帰属意識が高まっていくことになりますよね。ただ、頭の中でなくて、自分の体を通して人間形成をしていく訳だから、極めて貴重な体験を子どもたちはしていると考えていいんじゃないかと思うんですけど。ただ、学校訪問をしたら優れたある教頭先生が「この伊那市のやっている『暮らしのなかの食』について、先生、どう思うか。」と質問したら、「子どもたちが生産して食べるということは意味あることで貴重な子どもたちにとって体験になるけれども、みな21校同じことをやるので学校の特色ある活動と言った時にはやや課題があるんじゃないですか。」とこういうふうに返したんですよね。これはすごい発言だなと思って聞いたんですけど、ただ、みな同じものを作っていればそうなるんですけど、話があったように違うものを作っているのだから、麦を作るところもあるし、野沢菜を作ってそれを販売しようとしているところもあるので、農作業の中で学校が特色を出し始めているんですよね。これで私はいいいんじゃないかと理解しているんですけどね。

白鳥市長

子どもたちは全て違うので、同じようにコメを作ろうが体験するのは個々ですからね。それはそんなに変化を加えなくても、今のままで行けばいいんじゃないかな。この話を始めていくときりがありませんけど次に行きたいと思います。

平澤教育委員

すみません。予算が絡むので、ここしか言うところがないので言わせていただきたいんですが、父兄のなかにも大分「暮らしのなかの食」が浸透してきて評価されているんですが、アレルギー対応というところがあちこちにだいぶ増えてきちゃって課題かなと思います。自校給食になっているので調理員が限られていますよね、その中でアレルギー食を作るってなると、どうしてもミスが出やすくなって、先日も6年生だったんで、自分で対応できたので、入っていたけど出して食べなかった。で、大事に至らなかったんだけどって、学校側が手が回り切らなかった。400食作らなきゃいけないって言ったかな。4人でやっていて1人アレルギー食で取られると3人で400食になるので、どうしても1人を専属にできないというようなことがあって、アレルギー対応ということ、人件費も含めて予算の時に考えていただけたらと思って。

白鳥市長

はい、このことについて、現状を話して。どういう考えでいるか。アレルギー食対応。

北野学校教育課長

現状においては、各学校で栄養士と保護者が連携を取って、アレルギー食品、原因の除去または代替食で対応しているところがございます。ただ、確かに委員さんおっしゃるように通常の調理のなかでその日の当番が対応するというようなことがあります。ひとつ、将来的に必要なのではということでは検討しているところでは、とにかく安全を守るという意味ではアレルギー専門の調理場所の検討も今後進めていく必要があるのではという議論があるところがございます。

白鳥市長

伊那市内を3ブロックなり4ブロックに分けて、それぞれの拠点のアレルギー対応専門のセクションを置いて、そこから供給したらどうかということを検討しろということで今やっていますので、将来というか、近い将来ですね。そういうような対応と場合によっては保育園もその中で対応して配食という形でやっていこうということなので、これは重要な課題ですので、将来はということで課長は言ったんだけど、本当に近い将来そういうようなことを実践しようということ今検討しています。

平澤教育委員

是非やっていただきたい。今、調理のところで言いましたけれど、献立表をアレルギーのある子どもの家庭に送るんですよね。そうすると、あれがダメ、これがダメって返すことをやるんですけど、その中でやっぱり、栄養士さんにもばらつきがあって、ダメっていうのが入っているということがあって、2度3度とやり取りしなきゃならないというところもあって、専門になればありがたいととても思います。

白鳥市長

ミスをしたという報告は来ているの。

平澤教育委員

ミスにならない。やり取りのうちで出てくる。

北野学校教育課長

学校に対しては最近のミスの報告というのは。

平澤教育委員

調理のところはミスですけど、その前のところは多分報告行ってなくて。

白鳥市長

これ、そのところは大事なところなので、髪の毛1本入っていたって大騒ぎするようなことがあるんだけど、アレルギーの対応ね、本来Aさんに行ってはいけないものが入っていたとすれば、それはすぐ報告させて、対策をどうとるのかというところまでやっていかないと非常にまずいと思うよ。それと同時にブロック別のアレルギー対応を考えていかなきゃならないと思っていますので、それ、漏れなく拾うようにしてもらって、事実であれば、なぜそうしたミスが発生したのか、根本をたたかないとまた同じことが起きるよ。じゃあ、続いてICT教育。

(エ) ICT教育

北野学校教育課長

ICT教育につきましては、資料のところでは4ページと7ページになりますが、先程言いましたように、7ページになります。中学校情報教育推進ということで、タブレットのリース、校務用パソコンのリース、あと付け加えますと、これは情報教育の推進とは直接つながらないんですが、校務用先生方のパソコンですね、これをWindows VISTAのサポートが切れるということで一斉の更新を考え今後予算要望していきたいと考えています。

松田教育委員長

これ入れ替えるのに予算はどのくらいかかるの。

北野学校教育課長

約650台ほど、5年のリースで対応していきますので、1年で1,500万円ほどになろうかと思います。

白鳥市長

それでは、ICT教育につきましてお願いします。

田畑教育委員

ソフト、ハードの充実はすごく大事なんですけど、授業の限られた時間の中で板書している時間というのをなるべく少なくして、子どもに対峙するというのも大事になって来るでしょうし、言葉で言うよりも動きのあるパワーポイントで説明する方がいい場面もあるでしょうし、授業を手配していくことが必要にもなるでしょうし、小学校中学校でどうかということもあるかもしれませんが、反転学習ということで例えば共通知識を持ってもらって授業に出てもらうようになっていった時に、ネットのユーチューブで動画を流して、「一斉型の共通知識を入れる時間については自宅で見

てくださいよ。」みたいなことが都会の方では始まっているということを見た時に、例えば、先生たちがどれだけパワーポイントソフトを学ぶ時間が取れるのか、また、そういったものをパソコン教室に通って習得したいというニーズのある先生に、ある程度補助してあげるだとか、今はハードが足りないからそこに予算が付くんでしょけれど、学校にいながらにして授業にこんな形で使いますよみたいなことを学ばしてくれるようなことを、なるべく多忙感なく自分の要望で学べるような機会を保障するというような予算、まあ、今回はなくていいと思うんですが、次のタイミングでは絶対的に必要になって来るかなあと考えていまして、各学校それぞれ主幹指導主事の先生と回っていても板書は手放せないのかなと思うので、パワーポイントを投影しながら授業を進めている先生に私はひとりも会ったことがないので、今、限られた時間の中で濃度濃くって考えた時にその辺を活用するチャンスの予算化って今後必要になるんじゃないかと感じています。

白鳥市長

先生によっても差があるよね。

田畑教育委員

今、どれくらい授業で使われているんですか。

北原教育長

私は最近回ったところで2回使っていました。ひとつは中学校でタブレットを使って、グラフを描いていたところを写そうとしたんですけど、先生が「あれ、あれっ」って言ったら女の子がぱぱっと出てきて「私やります。」って言って写して、まだ使いきれていない。その部分についてまだ、特に新しく入ってきた機器に関して使いきれていないというところが共通にやっていかなきゃいけないところがあるかなあと。パワーポイントで非常に有効だったのは英語の学習で、動画で順次出してくるアニメーションですね。それによって子どもたちが学習しているところをどんどんどんどん次を予想しながら学習していく。「to不定詞」のところだったんですね。もう、面白いようにわかっていっちゃうという場面があった。でも、アニメーションを入れるにはそれなりの準備をしていかななくてはならない。準備時間がかかりますよね。こういうのを共通にしていければいいなと思うんですけど、そういった意味では非常に活用の用途は広いんですけど、まだ皆さんで使うところまでにはいっていない。

田畑教育委員

ちょっと先の話かもしれませんが、「この授業ってこんなことでこうなりました。こんな進展で50分のパワーポイントです。誰でも先生使ってください。」って、じゃあ新任の先生が「それ使わせてください。」っていうことができると、それが伊那レベルでいいのか、長野県レベルなのか分からないんですけど、やはり、ひとつの流れとして参考に自分の手を加えて加工していく。どんどんどんどん工夫で、いろんなことを削減できて、自分の意向を入れられるような画一化したというよりはむしろ工夫したものがどんどんどんどん上積みされていくようなことができればすごくいいなと思うんです。

白鳥市長

これ、一回実態を調査しなきゃいけないかもしれないね。どの程度のレベルまで各学校で先生方が使っているのか。で、期待する以下であれば、どうしたら先生たちに勉強してもらったり、勉強する時間があるのかね。どういう方法でやるのかということもやっていかないとまずいよね。タブレット入れているので使っていますということにならないからね。指導する人がいないと。いなじんだっけ、ああいうところに行ってもらって指導してもらうだとか、勉強会をするだとか、そういうのがひとつあると思うんだけど、実態が分からないとできないからね。調査をした方がいいと思うんだよ。

北野学校教育課長

今年おかげさまで文科省の事業「少子化に対応したこれからのICTを活用した遠隔教育」ということで、長谷中と東部中で研究授業をやったりするんですが、既に事前の授業をやったりして見させてもらったんですが、そこに関わっていく先生はしっかり研究されて、私自身もそれ以外の学校の先生方がどういう状況かというのを知っていない部分もありますので、そのあたりは充分把握することが必要だと思っています。

田畑教育委員

多忙感を減らせるんじゃないかと思うんです。共通のツールで工夫を加えていくことによって。

白鳥市長

そう、ソフトなんか同じだもんで。それを使っていけばいい。変える必要はない。

田畑教育委員

いいものは活かしていけばいいので。

北原教育長

唐木先生、回っていてその辺はどう。

唐木指導主事

今の教材の共通化ですけれども、東部中学校でデジタル教材を自作しております、それを使っての学校間での研究はもうやっております。長谷中対東部中の理科の授業なんですけど、ほとんど教材はできておりますので、お互いに同じものを持ってやると、私見ていて感心したのは、今までのパソコンは講習が必要だった。iPadっていうのはやっているうちに分かってきちゃう。そこのところが今までの機器とは違う。なので自分で分かっているから余計に楽しくなっちゃうっていう場面を何回も見ているので、iPadって極めていいなと思っている。さっき申しました11月13日に遠隔授業をやりますが、前回1回試しにやったところ、私、長谷中側にいたんですけれども、向こう側に画面を置いて、向こう側から「そこはどうなんですか。」と聞いてくるんですね。ああいうことってなかなか大事なことで、長谷中は8人しかいないけど、向こうは30人くらいいてね、そういう中でやって、反省なんか聞いてみますと、長谷中の中の8人の中での要望よりも、東部中とやってみて新鮮だったということと、東部中からしてみると長谷中でこんなにしっかりとやっていたのかと。な

んていうか、お互いのバリアがぱっと溶けていくという感じで非常にいい交流の場面だなと思います。なので、iPadの導入っていうのは、極めて子どもたちに「そんなに難しくないじゃん。」っていう、さっき教育長さん言うように、先生は「あー。」と言っている間に生徒はぱっとやっちゃうっていうような、しかも、先生がコントロールできるスクールタクトというソフトを使っていますので、生徒の勝手にはさせないんだけど、生徒の分からないことは生徒にできるという、非常にいい。13日は楽しみにしています。

白鳥市長

私も行きますので。

唐木指導主事

よろしくをお願いします。

田畑教育委員

一個、気をつけないければいけないのは、今の通信は通信ですごくいいんです。実際に授業の中で活かしていくっていうことを先生たちに取り組んでもらうのがないと、正直、世代の中でなんか俺は分からないぞという世代と、ものすごく好きな世代と当然出てくると思うんですね。で、俺は分からないんだけどっていう世代に無理やり教えるというのはまた多忙感が出てくると思うので、新しいものとして使っていきたいという世代の人たちがどんどん回していけるようにそここのところを現状を把握していないと、「今までできなかったことができるようになります。それでOK」というふうになるとやっぱり大事なところが抜け落ちていくように思います。補習の授業のために自分で授業の動画を作って、点数が50点以下だった子に「これ、何度でも見られるからユーチューブでうちで勉強して来い。」って言っている都内の先生って出てきているし、ユーチューブのところで見ると授業をアップするのも自由だし、そこに対して誰が担保していくのかというルールも本当は決めなきゃいけないということも学校サイドでは出てくるのかもしれないですけど、そういうツールを使っている先生の現状と、最先端の取り組みみたいなものも研究していかないと、一人ひとりの先生のレベルも違うということを入りながら、画一的なものでない切り口での予算化が今後絶対に必要になって来るのかと思います。

白鳥市長

では、時間もだんだんと押していますので、次の信州型コミュニティ・スクールに入りたいと思います。じゃあ、説明をしてください。

イ 信州型コミュニティスクール

北野学校教育課長

信州型コミュニティ・スクールにつきましては、予算との関係では、1ページになります。信州型コミュニティ・スクール事業、昨年度からモデル校3校、東部中、伊那東小、伊那北小なんですが、コーディネーターを配置して、信州型コミュニティ・スクールの立上げへの取り組みを進めていただいております。また、ほかの学校につきましても全小中学校今年度中に信州型コミュニティ・スクールの運営組織を立ち上

げていただくということで進めているところでございます。

白鳥市長

このことについて、何かご意見があればお願いします。

白鳥市長

進んでいるということでもいいんだね。

北野学校教育課長

はい。

ウ 学力・体力向上

白鳥市長

よろしいでしょうかね。次に行かせていただきます。学力・体力向上について。

北野学校教育課長

こちらの方、予算の関係で言いますと、主要事業の概要の4ページ、「小学校学力向上対策」ということで、全国学テ（全国学力・学習状況調査）とは別に、従来から標準学力検査を実施してきております。同じく、7ページになりますが、「中学校学力向上対策」ということで、標準学力検査の実施と、2番目として学力向上支援ということで、教員OBや信大生を支援員としてお願いしまして放課後学習等で学力向上を図る事業でございます。

白鳥市長

学力向上、体力向上も含めてご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

松田教育委員長

いろんなテストをしてその結果、こういうところに課題があるからこういうところに力を入れなければいけないという、そういう向上のための研究を欠かすことはできませんが、学力の向上とか体力の向上とかは学びを生活化しなければだめだと思うんですね。そういう意味でこの前手良小学校を訪問したら、子どもたちが朝鞆を玄関のところに置くなり校舎の周りを走り出したんですけど、ああいうことの積み重ねでいいんじゃないですか。あまり難しく考えないで日々10分とか5分取り組む時間を確保して学びを生活化していくことが徹底されれば、かなり学力も定着するし体力の向上も図れると私はいつもそう思っているんですけどね。

白鳥市長

そうですね。福井県とか石川県それから富山県とか全国に名だたるところもそうですけど、どんどん伸びていて、福井県あたりの話を聞いてみると、特段塾へ行く子が多いわけではなくて普通の授業の繰り返しだっていうんですね。大事なところを繰り返し繰り返し勉強して覚えていく。それだけだっていう話を聞いているので、そうしたことを習慣づけながらやっていけばおのずとついていくんじゃないかと思うんですが、習慣づけができていないということなんでしょうね。

北原教育長

やはり、基礎基本が大事になると思うんですが、例えば、算数でいう加減乗除であるとか、国語の読み書きとか、割りあいとそここのところが十分でないまま成長してしまっているということがあるのではないかなと、で、その意味では、この予算とは違うんですが、今、伊那北小学校を中心にやっていただいている読み書きの一番根本的なところで子どもたちがつまずかないだろうか。私たちはそれを単なるミスとして見逃していなかっただろうかというところで取り組んでいる。これは今後、国語の読み書き中心なんですけど、成果が期待できるのではないかと思います。今年このNRTを分析している中で、中村指導主事が「いや、国語の力が算数、数学にもかかわっているぞ。」と言いまして、これからMIMをやってきた子どもたちが上がっていくんですけど、そういうことに関してどうなっているかと、それも含めてですけど、とにかく基礎基本がなかったら次の展開とか問題解決に行かないので、繰り返しやっていくことがうんと大事だと思います。

白鳥市長

人生過ごしていく中で中学校で覚えた勉強さえできていればなんにも苦労しないだろうなと思いますよね。覚えていけばね。ほかにあればまたあとということで、特別支援教育、お願いします。

エ 特別支援教育

北野学校教育課長

伊那市におきましても特別支援に在籍する児童生徒数、非常に増えてきております。口頭で申し訳ないんですが、平成20年に小学校で割合で申しますと2.8%であった特別支援学級在籍児童が、本年度平成27年度では6.6%217人まで上昇しております。中学につきましても平成20年2.3%であったものが、本年度は3.7%75人の在籍となってきております。これは、大きな流れとしてインクルーシブの流れがあるわけですが、それに対応する形で予算につきましても、主要事業の概要の2ページ小学校運営の特別支援教育支援講師・支援介助員配置として講師1名、支援員27名を配置しているものであります。また、中学につきましても6ページの特別支援教育支援員を伊那中に配置しているものであります。そうしたインクルーシブの概念から増えていくことが予想される中で、必要になって来る事業かと思われれます。

白鳥市長

これ、中学校の特別支援員で1人なの。小学校は27人いて。

北野学校教育課長

はい。

白鳥市長

これはなんで。

北野学校教育課長

基本的には中学は配置がありません。

北原教育長

小学校低学年では、保育園で心配だった子たちに対して学習支援や生活習慣支援ということで対応しており、低学年中心になっています。だんだんにいなくても自立していけるように支援しております。中学校の1人については、小学校からの継続でいるんですけども、大体そういったところで習慣をつけましょうということであるかなあとと思います。全然別なんですけれども、来年度、伊那中学校へ難聴のお子さんが3名上がってくるということで、上伊那にはないんですけど、難聴学級を新しく設立していきたいということで県の方に申請しております。これは、教員については県の方からになります。

白鳥市長

これ、小学校はどうなっているんですか。

北原教育長

それぞれ小学校が別なものですから、松本盲学校の指導を受けながら各校でやっていただいています。これにも支援員がついているものがあつたと思います。

白鳥市長

特別支援についてほかにありますか。なければ続いて伊澤修二記念音楽祭をお願いします。

オ 第30回伊澤修二記念音楽祭

小松生涯学習課長

10ページになりますが、今年予算の中で市長の思いもありまして、伊那市の歌のCD作成というのがあります。来年30年を前に藝大のオーケストラで歌ったものをCD化し、教育施設等で使わせていただくように考えております。31日の当日につきましては今まで歓迎レセプション6時半ごろ行っていたものを1時間ほど遅らせていただくということでお願いしております。来年いよいよ30回ということで、音楽祭が行われる予定であります。この間2回の実行委員会を開きまして、内容的にはこんなふうに藝大と検討していきたいという意見をお聞きしました。ひとつは、去年から県伊那文化会館のジュニアオケ、子どもさんたちのオケがあります。今年新宿に行ってきましたけれど、そのオケと藝大のオケの共演をしたらどうかというもの、それから伊那市がブリッジウォーターからいただいたものや上伊那教育会が保存しているものを含めて資料がありますので、伊澤修二先生に関する資料の展示を、藝大からのものもみつける中で展示していきたいと考えているところであります。それから、あとは記念講演会、ミニコンサートなども藝大と相談する中で取り組んでいきたいと思っております。それから学校の総合学習の取り組みの中の音楽教育の部分で藝大の方で関わっていただくところがあればお願いしていけたらいいなど、特に高遠高校でやっているアウトリーチの活動がありますけれど、あんな形で各学校で取り組んでいただけるような藝大から支援がいただければありがたいなどと相談を持ちかけていきたいと考えております。ご意見があつたらお願いします。

白鳥市長

1回、それを文字に表してよく検討していくっていうもんだね。来年って言ったって1年だからね。30回を機に新しい展開でもいいので、従来の延長でなくてもね。また、課の中でいろんなアイデアを出してもらって、教育委員会の中にも図ってやってもらえばいいんじゃないかね。

小松生涯学習課長

藝大の方はこちらからの提案をいただければ考えますということですので。

白鳥市長

例えば、夏でもいつでもいいんだけど、学生が来て製作活動をするとかね、いうのだってありだと思えるんだよね。そんなことも絵にしても彫刻にしても時間がかかるので、こちらに空き家を置いてこっちに来た時に製作をするとかね。そうしたこともいい地域の刺激になるんじゃないかと思うので、そういうのを含めていろいろアイデアを出してもらってね。伊澤修二記念音楽祭、どうでしょうか。では、続きで学童クラブの運営についてお願いします。

カ 学童クラブの運営

小松生涯学習課長

12ページになりますけれど、今年度につきましては、東春近小学校の建築が夏休み前に完成いたしました。ご協力ありがとうございました。課題でありますけれど、今のところ西箕輪小学校の学童クラブが老人憩の家を使っておりますけれど、昭和55年の設置ということで老朽化しており、できれば学校から遠いものですから、子どもたちの安全を考える中で学校内の既存の施設に移れないかと考えていること。それから、新山小学校の学童クラブは新山保育園の1室をお借りしているんですが、平成28年につきましては入園者が12名程いるということで、その1室を保育園でそのまま使いたいということでもありますので、集落センターを活用できればということで地元働きかけていきたいと考えております。それから、伊那東小学校の学童クラブであります。現在登録者が120名ということで、今40名が1セットということで考えられております。3セットということで国の補助金も申請しております。ただ、住宅を寄付していただいたものを使っておりまして、ちょっと狭くなってきたというのが実情でありまして、この辺の対応を考えております。あと、高遠北小学校が26年から希望者が3名程しかなく、希望が少ないということで休止をしております。28年の希望も取ったんですが、希望者1人だけということもありまして、今のところ休止のままにしなければならぬと考えております。課題としてそんなものが上がっております。

白鳥市長

学童クラブにつきましてご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

白鳥市長

西箕輪はどうするの。

小松生涯学習課長

できれば校舎の中ということ、中学も小学校もくっついているんですけど、今給食施設を直して、あそこに2教室くらいのプレハブがあるんですよ。野球でネットを中に張って素振りの練習なんかをしてきた施設ですけど、今、ちょうど給食の調理施設をやっている中で、あそこは配膳で使ったりしていて、3月末までということになりますので、学校と話をしながらできれば校内の学校に近いところであれば、子どもたちも安全ですので、ただ、トイレがないので、トイレの心配等はしながらやっていった方がいいかなと考えています。ただ、本来補助金があるんですけど、トイレだけだとちょっと無理だといわれていますので、一般財源だけで対応しなければいけないかなと思います。そんなことを考えています。

白鳥市長

プレハブの野球練習しているようなところが使えるのかね。

小松生涯学習課長

結構いいプレハブです。

白鳥市長

ああ、そう。

小松生涯学習課長

何かの工事の時にプレハブ校舎として作って、そのまま置いてあるものだとお聞きしていますけど。耐震工事の時に仮に作って使っていたものを置いてもらってあるようです。2クラスくらい廊下を付けてそのままあるという状態です。

キ 伊那市の古い地名調査のまとめ

白鳥市長

はい。続きまして古い地名調査についてお願いします。

小松生涯学習課長

13ページになりますけれど、本年度27年度は伊那、高遠、長谷地区の42区を対象に最後の調査を進めております。それぞれのところで大体発足して調査をし出したというところになります。今まで3年間調査を進めてきましたけれども、おとし、去年で調査をしてきました部分については、まとめを作りまして、それぞれの公民館、それから小中学校には送らせていただくということで進めていきたいと思っておりますし、今年終わりますと来年度につきましては、まとめをさせていただいて、それぞれの地区のまとめを作りたいと考えております。今年につきましては、先頃中間のシンポジウムを行いまして、3月にまとめの会を行いたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

白鳥市長

今、81か所って言ったっけ。

小松生涯学習課長

はい、そうですね。ただ、「うちにはできない。」と断られたところもありますので、それはほんの少しですけれども。

白鳥市長

いいら。やったところなりの成果は出てくるだろうから。どうですか、古い地名調査。

ク 生誕150年記念「中村不折展」

白鳥市長

はい、続きまして中村不折生誕150年記念。

捧文化振興課長

これは来年度のことで資料に入っておりませんが、来年2016年が中村不折生誕150周年の年であるということで、この年度を不折イヤーということで市内文化施設が連携して企画展や講演、講座など行っていききたいということです。ざっとタイムスケジュールですけれども1、2月のうちにプレ企画として県伊那文化会館で講座を開催する。3月から、これは観桜期になりますけれど、歴史博物館で書をベースとした展示を行う。7月まさに150周年目なんですけど、創造館で、不折、漱石、子規をめぐる「吾輩は猫である」にまつわるグラフィックデザイナーとしての不折の仕事に着目した展示を行う。そして、こっちがメインでありますけれど、美術館の方で中村不折生誕150年展、これは台東区の書道博物館が6月から9月にかけて開催するものを持ってきて、いろいろなものを付け加えるような形になりますけれど、こちらは9月の17日から行うことになっております。それから、生涯学習センターでの講演会、県伊那文化会館でも地元のものを中心とした不折展を2016年の後半に行う。1年を通じてどこかで不折のものをやっている。そんなふうにしたいと思っています。また、統一したロゴマークなども作り、ポスターなども兼ね備える形で、伊那に来た人は不折がいるんだなど、そこから始まるような知識の旅をしてもらえるような、そんな年にしたいと考えています。

白鳥市長

面白そうですね。これ、どう、新宿中村屋に不折の商品づくりをしてもらうとか。

捧文化振興課長

そうですね。ロゴ、文字は充分使えますので、何か。この間、新宿の夏目漱石の記念館を作ろうとしている部署に伺ってちょっと話をしてきたんですけど、どこに何があるか分かっているたくさんの方の資料を持っていらっしやっておりますので、不折の手紙なんかも、不折の手にはなくて行った先にあるわけですので、そういったものも探って今までどこにも展示されていないものも見ることができるようになっていきたいと思います。

白鳥市長

はい。どうでしょうか。

田畑教育委員

はい、全然勉強不足で、中村不折さんて分かっていないんですよね。名前は聞いたことがあります。実際どんなお人柄で、どんな顔をされてどうだったかというのは、井月さんもそうですし、自分は小中学校の頃まで地元の偉人と言われて、例えば伊澤修二先生もそうなんですけど、ひとりの人間なので光の当て方によっていろんなものが出るっていうこともあるんでしょうけど、この地に生まれてきた偉人という捉え方で、勉強させてもらう機会って今の子ども達どのくらいあるのかなあって、こういうことを成し遂げてこの地でこういうふうに生まれた人がいるんだって憧れを持ったり、「すげーなー、俺も何年かしたらそういうふうになりたいんだ。」っていう動機づけになるような教育って、小中学校でやるとしたら、中村不折さんてこういう人生ストーリーだったんだって国語の授業で取り上げてもらうとか、授業で難しければ朝の読書会の時に読んでもらうとかいうことはやってもいいんじゃないかと思ったりするんです。

白鳥市長

はい、そういう提案ですので、また、知ってもらう。ほかにもいっぱいいますから、どんな方法、やるやらないも含めて検討してもらった方がいいと思います。それでは最後に体育施設の管理・運営・整備についてお願いします。

ケ 体育施設の管理・運営・整備について

酒井スポーツ振興課長

17ページですけれども、主な施設につきましては振興公社に委託をお願いしております、49施設ございます。昨年9月にあり方の基本的考え方をお示ししまして議論するということになっておりまして、本年度も所管である総務委員さんに現地を調査していただいて、一定の議論をいただいております。これからも意見をお聞きしながらあり方について検討してまいりたいと考えております。その中で、市民の声を聞くということでございますけれど、何をもちて市民の声と判断するのかよく見極めながら検討していきたいと考えております。

白鳥市長

県営球場ってもう1年だったっけ。来年いっぱい完成だったっけ。

酒井スポーツ振興課長

はい、今年度は1塁側、3塁側のスタンドと両翼を98メートルに広げるというのが主な事業で、来年度は照明になりまして、来年いっぱいということになります。

白鳥市長

はい。体育施設について、ご意見があればお願いします。

(2) その他

白鳥市長

ないようですので、協議事項については以上としまして、（２）のその他、事務局からあればお願いします。

大住教育次長

ありません。

白鳥市長

委員の皆さんからあればお願いします。

全教育委員（なし）

白鳥市長

先日伊豆市に行って勉強した時に、伊豆は合併をして4町が合併をしてひとつの市になって、当時、各町にはみな小学校、中学校があって、合併した当時38,000だったものが、10年経って32,000になっているという中で、まだ減り続けていくだろうと、かなり学校の統廃合しているんですね。強力に中学校1か所に絞ってとかね。で、その中のひとつの話で、小中一貫校を作っているっていう話があった。それって可能なんですか。

松田教育委員長

可能ですね。信濃町は小中一貫校にしていないかな。

北原教育長

信濃町は小学校5つと中学校ひとつを一貫校にしてみました。

白鳥市長

じゃあ、4つを（統合したっていうこと。）

北原教育長

合わせて小中を一か所にして学び続ける。ただ、一か所に集めるだけではなくて、教育課程をしっかりと小中9か年としている。

白鳥市長

ああ、そうなんですか。そんなことができるのかなあと聞いてきたんです。ありませんね。

松田教育委員長

あります。

北野学校教育課長

法律としてもこの4月から学校教育法の改正で、小学校、中学校のほかに義務教育学校という小中一貫校の制度も法令のうえで定められました。

白鳥市長

その他、委員さんの方で何かあればお願いします。よろしいでしょうか。

全教育委員（なし）

5 閉 会

白鳥市長

それでは、後半、バタバタしながら駆け足になってしまいましたが、以上を持ちまして伊那市総合教育会議第3回を終了といたします。ご苦勞様でした。